HANACO
はなこ
HANA COMMUNICATION PAPER
http://www.fukuhana.jp/

2015
5·22
No.28

［特集］
花とみどりあふれる
まちづくりを目指して
福博花しるべ

◎ PICK UP FLOWER SHOP あなたの街の花屋さん
◎ 福博花しるべインタビュー
◎ イベントレポート　フラワーステーション in 福岡
◎ イベント紹介　JELFA 福岡セミナー開催！
◎ 花の慰霊祭を執り行いました
◎ 生産流通部からのお知らせ　花き専用農薬「花華やか」
◎ 部会活動報告　キク部会、大分へ ～県外視察レポート～
◎ 花市場に新しいせり人が誕生しました!!

あたたかな太陽の光を浴び
木々に鮮やかな緑が芽吹く初夏は
庭の植物が一段と美しく色づく季節です。

ぷっくりとふくらんだ葉や茎の
丸いフォルムがキュートな多肉植物。
手入れが簡単で長持ちすることから人気を集めています。

多肉植物の寄せ植えは「デコニク」と呼ばれ
植物の種類や色、器によってさまざまな表情を見せます。
カラフルなものを集めてフラワーアレンジ風に、
グリーンで統一してナチュラルに。
自分なりにアレンジしたデコニクを
お気に入りの器に入れて飾れば、
たちまちおしゃれなインテリアに早変わり。

眺めるだけで癒されるデコニク。
家族や友人への
贈り物にもおすすめです。

PICK UP FLOWER SHOP　vol.28

入ってすぐのところには季節の花をディスプレーしている

JR宇佐駅から車で10分、豊後高田市にある創業30年の花屋です。需要の多くはギフトで、切り花や観葉植物、ランなど大小の鉢物からプリザーブドフラワーまで、幅広くそろえています。当店では心を込めたていねいな対応を心がけています。というのも、人口の少ない田舎町の当店にとっては、一人ひとりが大切なお客様。たとえば、フラワーアレンジの手入れの仕方や植物の育て方を書いた「お手入れカード」を花束やフラワーアレンジに付け、花を買った人にも受け取った人にも長く楽しんでもらえるよう工夫しています。

花市場の方にお願いしたいのが、産地見学の機会をつくってほしいということです。現在も産地見学は行われていますが、生産者の方ともっと意見を交換することができれば、互いによりよい方法で花の生産、販売ができるようになるのではないでしょうか。もっと多くの産地に行く機会が増えることを期待しています。

大小さまざまなプリザーブドフラワーを置く

国道213号沿いにある

FLOWER SHOP
花れん
（北九州セリ番号333）
DATA
所在地:大分県豊後高田市
高田1842-1
TEL:0978-24-3295
FAX:0978-24-3294
営業時間:9:00～18:00
休み:日曜、祝日

大ヒット御礼

花き専用農薬、という選択。

花き類の主要病害虫を一度に予防する「フラワープロテクター」

病害虫の総合対策に
花華やか
顆粒水溶剤

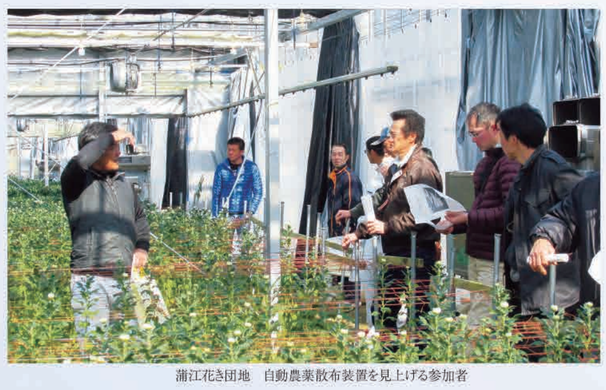
■ お求め・お問い合わせ
福岡県花卉農業協同組合 購買課（直通）　電話:(092)621-6411　FAX:(092)612-0316

部会活動報告
キク部会、大分へ ～県外視察レポート～

3月2日（月）～3日（火）にかけて、キク部会は大分県で産地視察を行いました。

1日目は、佐伯市の蒲江花き団地へ。この花き団地は、蒲江花き生産組合が海岸沿いの土地を開拓して作ったものです。スタート時の昭和52年には10戸の農家が約1ヘクタールの土地で菊の栽培を行っていましたが、現在は生産者23名、栽培面積約27ヘクタールまで規模を拡大し、みなさんで協力しながら生産しているそうです。視察参加者10名は、蒲江花き生産組合の三原昭司組合長の案内で第2団地を視察しました。ビニールハウス内では、冬には「神馬」と「精興光玉」、夏には「優花」や「精の一世」、「精の枕」を生産しているそうで、今回は「神馬」の栽培の様子を見せていただきました。蒲江花き生産組合では、月に1度定例会を開催し、その中で団地内の圃場の巡回や室内研修を実施することで、組合員の意識を高め、栽培技術の向上を図っているとのことです。

2日目は、豊後大野のはな団地にて、SPマム生産者の村石哲也氏の温室を視察しました。この団地では、村石氏を含めて3名の生産者の方が、1人約1ヘクタールの土地で菊を栽培しています。蒲江花き団地とは異なり、山の中に温室を建てているので、寒い日は気温がマイナス7℃まで下がるそうです。そのため、ビニールハウスでよく使用されるA重油ではなく、A重油より低価なLSA重油を使用することで燃料コストを抑えるよう努めているそうです。


蒲江花き団地　自動農薬散布装置を見上げる参加者

花市場に新しいせり人が誕生しました!!

福岡県花卉農協は福岡県に新しくせり人の届け出を行い、福岡花市場職員11名、北九州花市場職員5名が認定をいただきました。その中には、当花卉農協初の女性せり人の姿も。この認定に伴って、福岡花市場では、4月1日（水）にせり人資格登録証の授与式が行われ、新せり人には、原組合長より登録証が授与されました。

～新せり人の紹介～

福岡花市場
大原　健　福澤　将吾
原野　一成　宮内　幸一郎
市丸　誠　鳴床　卓士
池田　龍　原田　由起子
佐藤　孝　飯川　沙織
廣澤　孝則

北九州花市場
中畑　和之　山中　英樹
吉瀬　陽一郎　木松田　兼清
矢野　俊祐

福岡花市場での資格登録証授与の様子

［はなこ］5月号 2015年5月22日発行
通巻116号
●発行・編集
福岡県花卉農業協同組合
〒812-0064
福岡市東区松田1丁目3番20号
TEL:092-621-6767
FAX:092-611-0139
Email:info-fukuhana@ja.fukuhana.or.jp
http://www.fukuhana.jp
●企画・印刷（株）プリテックフクオカ
編集・（株）クロス編集事務所
デザイン・シゲ デザイン
HANACO はなこ

特集
花とみどりあふれる
まちづくりを目指して
インタビュー

市民・企業・行政がいっしょに街をつくる
5年目を迎え、進化する「福博花しるべ」

インタビュー協力
福岡市みどりのまち推進部
みどり推進課
乗冨　哉明係長
山本　佑介さん

4月上旬から中旬にかけて、花と緑のあるまちづくりを推進するイベント「福博花しるべ」を実施しました。JR九州新幹線が全線開業した平成23年からスタートし、今回で5回目です。

期間中は第1回から行っているメイン企画であり、市民・企業との共同による「チューリップロード」の整備や「ガーデニングショー」（場所：警固公園）を開催したほか、今年はじめて花の消費動向調査を目的とした「フラワーステーションin福岡」（場所：JR博多駅）を開催しました。

ガーデニングショーの開催期間中は、散策中の休憩に利用できる「まちなかカフェ」を福岡市内に5カ所、日常生活に取り入れられる花や雑貨を販売する「グリーンマルシェ」を警固公園に設置。週末には緑のコーディネーターが、寄せ植えやフラワーアレンジメントの方法を紹介する「花と緑の体験講座」を行いました。このような取り組みに対して訪れた人からの評判は上々で、多くの市民のみなさんにイベントを認知してもらえたのではないかと思います。

イベントのメインの一つである「チューリップロード」は、JR博多駅と天神の警固公園とを結ぶルート上にチューリップの花壇を連ね、花を眺めながら楽しく街を歩いてもらうことを目的としてはじまった企画です。これまでは、はかた駅前通りからキャナルシティ博多、清流公園、天神中央公園、福岡市役所を通って警固公園へと続く約2.5kmのルートのみでしたが、今回は新たにキャナルシティ博多から博多リバレイン方面へ向かうルートを設けました。チューリップはたくさんの種類のなかから50品種ほどを選び、色や開花の時期などを調整しながら、できるだけ途切れることのないよう花壇をつくっています。植え付けは毎年11月上旬から12月下旬ごろで、協力してくれるのは沿道の企業や市民団体、小学校、数百人のボランティアの方々です。今回は全部で11団体が携わりました。

「福岡を緑があふれる街にしたい」という思いはみんな同じだと思います。完成した花壇はそれぞれに個性的で、キャナルシティ博多や清流公園などのおもなポイントではひときわ多くのチューリップが咲き誇り、街行く人たちの足を止めていました。こうした市民・企業・行政が一体となってまちづくりを行うことに大変意味があると思います。新しい交流が生まれるきっかけにもなるのではないでしょうか。

JR博多駅を出発し、沿道の花壇を眺めながら「チューリップロード」を歩いていくと、もう一つのメインのイベント会場である警固公園に着きます。公園内には花卉農協や造園・ランドスケープ業界の方々、学生など10団体がプロデュースした花壇、また保育園の子どもたちも参加した市民応募花壇作品が13基、「キャリア部門」「一般部門」に分かれたレベルの高いハンギングバスケット66点が出展されました。

市民花壇やハンギングバスケット作品はコンテストを行い、専門家たちの審査のもと優秀作品が選ばれました。美しい作品が数多く並ぶなか、企業や業界団体プロデュースの花壇は、さすが専門家だけあり、見ごたえたっぷりでした。

緑に包まれて癒される生活空間を提案した東邦レオ株式会社の「あなたの家にも屋上ラウンジを」や、プランターとベンチを組み合わせることで緑をより身近に感じる福岡市造園建設業協会の「花と緑のベンチ」など作品ごとにテーマがあって、「ようこそ花の街へ」というタイトルで福岡市の花の街づくりへの応援と期待を寄せた花卉農協のコーナーも印象的でした。

また、今年も力が入っているなと感じたのが学生たちの作品です。西日本短期大学の緑地環境学科では、2年生に進級してはじめての活動がこのイベントへの出展であり、夜遅くまで多くの時間を費やして二つの作品を制作してくれました。日本庭園をイメージしてつくった花壇はすばらしい出来栄えで、若者たちの才能とエネルギーを感じさせるものでした。また、二つのうち一つは福岡県の高校生とコラボレーションした作品です。次代を担う若い人たちが互いの技術を高め合える場所を提供することは有意義ですし、このガーデニングショーを通じた彼らの成長が楽しみです。

今回の「福博花しるべ」を通して、今後も市民や企業の方々とのつながりを大切にし、花と緑にあふれたまちづくりを進めていきたいと思いました。実は、福岡県は切花の生産量が全国上位であるにも関わらず、政令指定都市である福岡市は消費量が少ないという状況にあります。私たち行政は花と緑あふれるまちづくりに取り組んでいますが、ここの「花と緑あふれるまち」が花を買う人がたくさんいるまちでもあり、少しでも花の消費拡大につながるよう努めていきたいと考えています。

これまで春先にチューリップでまちを彩る「福博花しるべ」を実施してきましたが、これからは一年を通じて花があふれるまちづくりを進めるため、昨年から企業協賛により花壇をつくる「てらす花壇」を花しるべルート上の4カ所に設置しました。花が街を照らすようにとの思いを込めたネーミングです。これからも市民・企業のみなさまと協力しながら、広がりのあるイベントを実施し、花と緑あふれるまちづくりを進めていきます。

北崎校区自治協議会「北崎よかとこ隊」による花と緑の体験講座。参加者は、カーネーションでプードル犬を作りました。

チューリップロード（清流公園）の様子

福岡市みどりのまち推進部 みどり推進課　乗冨哉明係長(左)と山本佑介さん(右)
JA福岡県花卉プロデュースの花壇前にて

イベントレポート
フラワーステーションin福岡

【開催日時】3月30日（月）～4月3日（金）11時～19時
【開催場所】JR博多駅前広場

「暮らしに花を」をテーマとしたイベント『フラワーステーションin福岡』が、福博花しるべ実行委員会によってJR博多駅にて開催されました。イベント期間中は福岡で生産された花を使ったブーケ、一輪花束などのカジュアルフラワーやミニ胡蝶蘭、多肉植物などの鉢物の展示即売ブースを設置し、博多駅を訪れた方々に家庭や職場で日常的に使える花の提案を行いました。

また、福岡産の花きに関するパネルを展示。福岡ではどのような花がどの地区で作られているのか、福岡における花の生産量や消費量はどうなっているのかを、マップやグラフを使って消費者の方々にわかりやすく紹介しました。

さらに、消費者の方々に対して、今後もよりいっそう花の提案を行っていくために消費動向アンケートを実施し、回答者には花の種をプレゼントしました。

今回のイベントを通して、多くの方々に福岡県産の花きのよさを知ってもらえたことで、福岡で生産された花々が、より多くの福岡の人々の暮らしに彩りを添えるようになってほしいと思います。

イベント紹介
JELFA福岡セミナー開催！

【開催日時】4月17日（金）13時30分～16時
【開催場所】福岡花市場 第1会議室

日本ELFシステム協会（JELFA）主催のセミナーが福岡花市場にて開催されました。JELFAは、「ELFバケット」を利用し、バラなどの切花を生産者から販売店まで届ける切花流通システムなど、花き流通のノウハウを提案し、普及させることを目的として活動されている特定非営利活動法人です。JELFAのセミナーはこれまで毎年首都圏で開催されていましたが、今年は日本を代表する花きの流通の現場を訪問してセミナーを開催しようということで、その第1回目が福岡で開催されることになりました。今回のセミナーのテーマは「顧客視点～生産と販売のスペシャリストが語るこれからの戦略～」。生産と販売の専門家、それぞれの立場から語られる戦略を聞くため、生産者、JA、買参人、運送関係者や市場関係者など花き業界に携わる計129名と多くの方々が参加されました。

第1部では、田代高嘉氏に生産者の立場からご講演いただきました。静岡県でガーベラの生産をされている田代氏は、JA大井川花卉協議会ガーベラ専門部会に所属し、1996年に設立されたJA大井川花卉協議会おおいがわの花ブランドの立ち上げに尽力された方です。今回のテーマが「顧客視点」ということで、「顧客に求められる産地とは」という切り口から、産地の価値を高めていくためにJA大井川花卉協議会ガーベラ専門部会が行ってきた取り組みについてご紹介いただきました。ガーベラ専門部会では、バブル経済の崩壊後に「個性ある花の出荷と信頼関係の構築」、「鮮度保持と新たな流通の仕掛け」、「高価格より需要安定路線が必要」、「日持ちの良い花を供給」の4つを新たな戦略として打ち立て、その戦略に沿って「ELFバケット」の導入、Flower Auction Japan（FAJ）が実施する「日持ち満足プロジェクト」への参加と一定の流通品質をクリアすることによって得られる「GOOD!タグ」の獲得、「養液栽培システム」導入による生産性の向上と生産・品質の安定化など、さまざまなことに取り組まれてきたそうです。とくに、「ELFバケット」の導入に関しては、産地からガーベラを出荷する時点では、前処理をしたものとそうでないものは目に見える違いがないため、部会員の方々に前処理の必要性をいかに意識させるかが重要であったと述べられ、前処理を適切に行ったものとそうでないものを用意し、時間の経過とともにどのような違いが出るかを部会員の方々に実際に見せるなどして、意識の改善を図ったことが語られました。

第2部では、株式会社ヌボー生花店代表取締役社長の山崎年起氏に販売者の立場からご講演いただきました。長野県で生花店を営まれている山崎氏は、ITシステムを活用し、従来の花き業界にない斬新な経営によって全国の生花店の成功事例としてたびたび紹介されています。また、生産地に足しげく通っての生産地と一体となった販売活動や、全国の生産団体・生花店向けの講演活動を行い、花き業界の活性化の一翼を担われています。今回の講演では、「人は失敗から学ぶ」ということで、これまで見てこられた元気のない花屋の共通点として「責任者が仕入金額や売上・利益などの数字管理ができていない」、「花屋は花を売ることが仕事だと思っている」、「花が売れないと常に嘆いている」、「自社の人材を悪く言う」の4点を挙げ、その課題を克服するために山崎氏が行った取り組みが紹介されました。花を買うだけなら配達してもらうだけでもいいのに、お客様が何のためにわざわざ生花店に足を運ぶのか、お客様の要望に応えるために生花店が何をすればいいのかを考えることが大切であり、今までの業界の常識にとらわれず、フィルターを取り払うことが大事であるとも語られました。

それぞれの講演後には質疑応答の時間がとられ、参加者の方々からは「ガーベラの水揚げの方法」や「採用時の従業員の資質の見分け方」など多くの質問が出されました。直接話をする機会の少ない立場の方々が話をし、日ごろの疑問を解消する貴重な場になったのではないでしょうか。

花き業界を挙げて、消費拡大のための花きの鮮度保持に取り組んでいる現在、今回のセミナー開催は、鮮度保持に対する意識を向上させ、消費者に鮮度のよい花を届け、消費を拡大していくための一歩となったのではないかと思います。

JA大井川花卉協議会
ガーベラ専門部会　田代高嘉氏

㈱ヌボー生花店　山崎年起氏

「花の慰霊祭」を執り行いました

【開催日時】4月8日（水）午前7時～
【開催場所】福岡花市場

1年間多くの人々の目を楽しませ、安らぎを与えてくれた花々に感謝を捧げ、その霊を慰めようと花き業界関係者が一堂に会して花の慰霊祭を執り行いました。今年で35年目となるこの慰霊祭には、福岡県花卉農業協同組合、福岡花商協同組合、福岡生花仲買組合、福岡県農林水産部園芸振興課、福岡市農林水産局農林部農業振興課、西日本華道連盟、帝国華道院九州連合会、JA福岡市、JA糸島、JAたがわ、JAにじ、JA宗像、JAふくおか八女、JA筑前あさくらの計14団体、約100名の参加がありました。また、会場には県内7つのJAや個人の生産者の方から頂戴したご献花を使ったスタンドやアレンジメントが飾られました。

当日は、櫛田神社の神主様によって約1時間に渡って供養が行われ、参加者は祭壇に向かってそれぞれ祈りを捧げました。この様子は、TNCテレビ西日本や西日本新聞で紹介され、一般の消費者の方々にも慰霊祭の意味を知っていただけたのではないかと思います。また、慰霊祭後には、より多くの人たちに花の魅力や慰霊祭の意味を知っていただこうということで、会場に飾られていたアレンジメントを小学校や福祉施設へ寄贈しました。